

平成 30 年度

第 1 回上田市総合教育会議(平成 30 年 8 月 28 日) 議事録

1 開会

2 土屋市長あいさつ

皆様、本日はそれぞれ御多忙のところ、第1回の総合教育会議に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

峯村教育長はじめ、教育委員の皆様方には、平素から子どもたちの教育の充実、そして発展のために、多大な御尽力をいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

まず、学園都市づくりについて触れさせていただきますが、昨年4月に公立大学法人として開学いたしました長野大学の公立化初年度の業務実績につきまして、先日、上田市公立大学法人評価委員会から、設置者たる市長宛てに評価結果報告が提出されたわけですが、全体評価としては概ね順調であるとの結果でありました。

学部学科の再編などやや遅れているところもありますが、スピード感を持って大学改革を前に進めるということでありまして、その思いを私たちもそういう思いでありまして、大学側に伝えたいところでもあります。

さて、教育委員会と市長部局が、教育の課題や、あるべき姿を共有し教育施策を推進する、この上田市総合教育会議は、平成27年度の法律の改正を受けて設置され、4年目を迎えております。

この会議ではこれまで、教育大綱の進捗状況の確認のほか、様々な教育課題についての意見交換を行ってきたと聞いております。私を含めて、今回が初めての会議となる委員の方々もおられることから、本日は、現在の上田市教育大綱推進に向けた主な構想・計画につきまして、事務局から説明を受けたのち、今後の総合教育会議のテーマなども見据えながら、意見交換などできればと思っております。

私の教育に対する思いの一端は、公約の中のひとつに「7つの挑戦」がありますが、そのなかに「子どもたちの郷土愛が芽生える教育環境・教育システムの整備・充実」、「生涯100年時代を迎え『生涯学びのまち上田』をめざす」など掲げておりまして、これらの実現に向けての御意見、御提言などいただければありがたいと思います。

この会議において委員の皆さま方と率直な御意見を交わすなかで、私の思いと皆さまの思いが重なりあい、めざす姿を共有し連携を進めることにより、「地域の宝であります子どもたちがすくすく育つまちづくり」「生涯を通じて学べる環境づくり」の進展が図られることを期待しております。

以上 簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます、会議を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3 峯村教育長あいさつ

皆様、あらためまして、こんにちは。平成 30 年度第 1 回上田市総合教育会議の開催にあたり、教育委員会を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。

日頃から、土屋市長には上田市の教育行政発展のために多大なる御支援、御協力をいただいております。心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

本日の総合教育会議は新しい教育委員会制度における大きな柱の一つであり、市長と教育委員会とが様々な教育課題について共通認識を持つための大切な機会であると捉えております。

上田市教育大綱が策定されてから、教育委員会ではこの教育大綱の概要を十分に踏まえ、第 2 期上田市教育支援プランをはじめとした、様々な構想・計画に基づく各施策について、年度毎に着実に実施してきておるところでございます。

さて、近年、全国的な教育課題として、いじめ、不登校、虐待、子どもの貧困などが指摘されております。

また、国際化や情報化が進展する一方、我が国は過去に経験したことのない人口減少社会に転じております。

このことが社会環境や生活の変化にもたらす影響は予測し難いものがあり、これからの子どもたちは、ますます変化の激しい社会を生きていかねばならないと感じているところがございます。

このような中で、様々な教育課題に着実に対応していくため、市長と教育委員会が意見交換を密にし、問題を共有しながら、連携を深めていくことは大変有意義なことであると思っております。

私は教育長の職に就かせていただき、多くの学校を訪問してまいりました。また、公民館をはじめ、様々な教育施設における行事や大会等にも出席しておりますが、そこでたくさん子どもたちが元気よく伸び伸びと活動している姿を見てまいりました。

その子どもたちが安全で安心して学習や生活ができるようにすることが、全ての土台にならなければならないと思っております。

さらには教育大綱の基本理念であります「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」に込められた故郷をいつまでも愛し、誇りに思いながら、人と人との絆を大切に、夢と希望を持って未来への活力を生み出していく人づくりをしていくことこそが、市と教育委員会に課せられた重要な役割であると考えております。

本日は、教育大綱の推進に向けた教育の各分野の主な構想・計画への取り組みなどについて、有意義な意見交換ができると思っております。

結びに、この総合教育会議が市と教育委員会が一体となって教育行政を推進するための意義ある会議となりますことを願ひまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

4 会議事項

(1) 会議の経過について

鎌原政策企画課長

資料1により説明

柳原政策企画部長

ここまでで御質問や御意見等がございますか。

それでは説明にありましたように、このあと、教育委員会から説明いただきます計画を加えまして2つほど議題を個別に抽出して、また意見交換ということで予定させていただきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

(2) 教育大綱の推進に向けた教育各分野の主な構想・計画について

中村教育次長

資料2により説明

- ・学校教育分野
- ・生涯学習・スポーツ分野
- ・文化芸術分野(上田市歴史文化基本構想)

鎌原政策企画課長

資料2により説明

- ・文化芸術分野(第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想)

ア 学校教育分野

柳原政策企画部長

学校教育分野につきまして、御質問や御意見がありましたら、よろしく願いいたします。

土屋市長

生活・学習ノート「紡ぐ」ですが、これは全生徒に配っていると思いますが、家庭と学校のコミュニケーションを図るうえでも、また親と子どものコミュニケーションを図るうえでも重要だと聞いておりますし、今、順調に進んでいる感じで良いですかね。

高木学校教育課長

今年度4月から全小中学校に配付して毎日活用していただいている。そのなかで、学校の方からもいろいろ実施したうえでの意見をいただいております。例えば、3学年のあるクラスの学級通信には、保護者が子どもの「紡ぐ」をチェックし、コメントを寄せてくれることで、子どもの生活習慣や学習意欲に成果が見えているというような、非常に効果がでているというコメントをいただいております。

なかには、使い方がよくできていないという御意見はございますが、今年度、それぞれの学校から意見を集約するなかで、次年度に活かしていきたいとこのように思っております。

平田教育委員

学校訪問に行く際に、「紡ぐ」の活用状況を拝見することがありますが、子どもが書いたことに対して教師も赤ペンで対応し、しっかり取り組まれている学校もあれば、先ほどお話しがあったようにまだどんな形で進めていこうかと悩んでいると見受けられる、そんな学校もあります。

他地域の事例では、学校全体で取り組まれた結果、活用が定着し子どもと保護者と担任を繋ぐ欠かせないアイテムとなり成果が見られたともお聞きしています。

子どもと保護者と先生との信頼関係を繋ぐものとして、上田市独自のやり方でも良いと思いますが、良い形で進んでいる事例を発信していただき、効果的な形でまた具体的に使っていただくように教育委員会としても支援をして欲しいと思います。

ひとつひとつ検証していくのも大変だと思いますが、是非、効果的な事例を踏まえて、上手く活用してもらいたいと思います。

柳原政策企画部長

様式は上田独自のものですか。

高木学校教育課長

もとは、視察に行ったところで、生活ノートを利用しているものがベースとなっていて、そこにそれぞれ意見等をいただいて、修正を加えてきたものが現在使われているものということです。

今後につきましても、先ほど、申しましたが、現場の教員の中にはいろいろな意見や問題もあるので、それらを集約して更に良いものにしていきたいと思っております。

柳原政策企画部長

ありがとうございます。「紡ぐ」については、ほかに何か御要望、御意見はありますか？

まず学校分野について、次に生涯学習分野について、といった形で進めていきますが、どうしましょう。学校教育分野全体でどんな御意見でもよろしいです。

北沢教育委員

最初の丸印のところ、2 つについては重点的に取り組んでいることなので、これは結構なことだと思います。ただ、「家庭学習ノート『紡ぐ』をどのように使っているか」「タブレットパソコンが特別支援学級にどれだけ導入されたか」だけの評価では不十分だと思います。これは、学力定着・向上のための手段であって、目的ではないからです。学力の定着・向上とどのように関わっているかということを、常に頭において検証して欲しいと思います。子ども達が「紡ぐ」を毎日書いているから良いとか、タブレットパソコンが特別支援学級に入っているから良いとか、そういうことだけでは目的に近づけません。

いつも言うように、「紡ぐ」や「タブレットパソコン」をどのように活用して学力の定着と向上に結び付けていくか。その視点を常に忘れないで欲しいと思います。以上です。

柳原政策企画部長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。どうでしょう。

横関教育委員

特別支援学級のタブレットパソコンについてですけれど、学校訪問していても、それをただずっと見て勉強している姿や、ヘッドホンをつけて勉強していて、これで、自分で考える力や、それをどう表現して、どう相手に伝えるか、というところで、どんな勉強ができるのかなというところがどうなのかなと思いました。先生が生徒をどう導いていくのだろうというところを感じていません。

やはり社会に出てからは、人と関わって生きていかなければならないので、生きる力を養うために先生がどう関わって、人がどう関わっていかなければいけないのか、タブレットなどの機器だけに囚われず、やはり人と人とのつながりということを考えていただきたいと思っています。

また、先生方で、いろいろ取り組み方が違っていたり、各学校での取り組み方も違うと思いますので、是非、先生方の横のつながり、縦のつながりをもちしっかり共有していただいて、検討して行ってほしいと思いますし、進捗状況も知らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

柳原政策企画部長

ありがとうございます。ほか、いかがですか。

綿谷教育委員

人口減少社会がすごい勢いで来ております。2035年になりますと、上田市の人口も20パーセント減少してきて、年少人口14歳までも35パーセント減ってくる。

本当にこれどおりいくのかどうかはありますが、ある程度の数字はこのどおりいくのだろうと思いますけど、歯止めをかけるような対策を打たないとまずいじゃないかと思います。

愛する子どもたちを育てていくこととなりますと、やはり魅力ある地域づくりをもっと積極的にやっていかないといけないのではないかと。そういうなかで、教育というものも地域一体となった教育というものも必要となるだろうし、地域に参画していくことも非常に大事な事なのかなと思います。

しかしながら、そういうなかでも、働き方改革もありますので、非常に難しいところもあるのかなと。ですから、活性化させる地域の方をどんどん参加させてやっていけるような、具体的な対策が必要なのかなと思います。

子どもたちが将来、大学に行き、そしてその後上田市に戻ってくる、そういう地域に是非していかないといけないのかなと思いますし、ある中学校では7割方は大学に行った後は地域に戻ってきたくないと、そういう意見もあったようなので、そういうところを改善していくような、具体的方法を是非ともお願いしたいと思います。それには地域全体のいろんなところが参画して一緒に考えていかなければならないと思いますので、是非そのような対応をお願いしたいと思います。

柳原政策企画部長

ありがとうございました。委員の皆様から御意見いただきました。その他、よろしいでしょうか。

土屋市長

今の視点、委員の視点のことですけれども、やはり小さいころに ふるさと学習と言いますが、上田のまちに生まれて住んで学んでいくなかで、まちが何もないと言うのではなくて、歴史もあるし、文化もある上田ではありますし、それをしっかりと伝えることが大事なかなと思います。

個々で活躍されている皆様も決して、ひと時のことを心の中に持っていると思いますし、忘れないと思います。ですので、すぐ戻ってこいとは言いませんが、いつかは戻ってくる。

ひとつとして、小さいころから上田のまちの良さ、歴史の良さ、文化の良さ、自然の良さを伝えていくことが大事なかなと思います。

ですから、広い範囲になっていますけども、そういう面でも学習あるいは教育が必要なかなと思います。

峯村教育長

私も良いですか。教育委員会の中で課題はたくさんあります。学校教育について、いくつかある課題の中から敢えて三つを選ぶと、一つは学力向上、二つ目は、いじめの根絶、不登校の対応、三つ目が特別支援教育の充実であると私は捉えています。

それで、一つ目の学力向上と三つ目の特別支援教育の充実については、学力定着向上のなかに、その手立てが示されております。この教育支援のなかの大事な目的として、いじめ事案等への迅速な危機管理体制の構築というのがございます。2 番目に申し上げたいいじめの根絶というのを資料には載っていないのですが、教育支援にも大きく関係してくる大事な項目であると思っています。

そこで、参事からいじめ事案について、学校からの報告等について、説明してもらえると良いかなと思います。お願いします。

池田教育参事

教育参事の池田であります。昨年度と今年度のいじめについての報告を比較いたしますと、昨年度までのいじめの報告につきましては、校内で起きたいじめについては、その都度カードを作って、報告していただくよう、お願いをいたしました。

ところが、昨年度の途中でありましたけれども、文科省の方からやはりいじめの捉えについて、非常に甘いと。要するに加害者、被害者の関係の中で被害の子どもたちがこれは嫌なことであるとか、苦痛であるとかということを把握したならば、それはいじめとしてしっかり学校の方の教師も捉えてほしいというような内容の通達がされたところで、上田市教育委員会としてもその報告をもとに校長の方に指導を行いました。

つまり、それまでは担任サイドでも、クラスの中で子どもたちの争いが起こった時にそれは単なる喧嘩である、いじめではないというような解釈がなされていたことが事実でございます。

それを校長の方に報告しないばかりに例えば、その後、ちょっとした争いが大きなものに発展しても、その時点ではいじめとして認めなかったケースがあると、こちらでも思っておりますが、今のような指導があって、私たちの方も校長の方にそういう小さなことから始まって、全部報告を上げていただくような形にかえることを指導したところ、今度はあまりに件数が多いので、その都度報告カードを上げることがなかなか学校の方も教頭、それから校長の方も少しオーバーワークになってしまうということになりますので、今年度は、そういうものについては累積しておいて、定期的に報告していただく形にいたしました。

その結果でございますが、今年度 1 学期 4 月から 7 月までの現状のなかでは、小学校の方は数件報告がございましたが、重大ないじめについては、小学校も中学校も現在のところ一学期の経過の中では、ございません。ただ、小学校の中では、いじめとして被害者からの報告があったというものについては何件かございましたが、中学校の方は現在、まだ大きなものや細かなものについても一学期の時点ではございませんでした。

しかし、教育長が言われましたように、今後まだ学校生活の中でのいろんな事案が上がってきますので、こちらの方も目を通しながら、その都度、学校の方はどうなっているか、その後どうなったかということでの連絡を取り合って、情報を共有して、もし必要なものについては、こちらの方から指導すると、或いは支援するというような形をとっております。以上です。

峯村教育長

引き続き良いですか。総合教育会議立ち上げの背景には、2011 年にあった大津市のいじめ自殺事件があったわけです。

その時の問題は、学校と教育委員会がいじめの事案について隠ぺいし、それが大問題になりまして、当時の市長が第三者調査委員会を立ち上げて解決に向けて動いた。

そのような内容も総合教育会議の立ち上げのひとつのきっかけとなっています。

今、参事からの説明にあったように現状、学校からの報告が大変丁寧になされていると。担任も職員も子どもたちの生活の様子を良く見ているということで、この体制を維持していくことが重大な事案の発生を防ぐことになるだろうと考えています

あってはならないことですが、万一のことがありましたら、この会議において検討していく内容でもございます。以上です。

北沢教育委員

学力やいじめ・不登校、「小中学校のあり方検討委員会」の二つについて、お話ししたいと思います。

学力定着・向上については、「紡ぐ」あるいはタブレットパソコン等で上田市教育委員会は、手立てを講じていると思います。また、上田市には現場の先生方による「学力向上委員会」があって協議しています。なかなか、全国学力学習状況調査結果の数字には、むすびついてはいませんが。

いじめや不登校についても、上田市教育支援プランの 17 頁を見ていただければ分かりますが、この一番に「心の相談員」の配置とあります。上田市は他の市町村に比べて、以前から非常に丁寧に支援していると思います。そのことが不登校の在籍率と直接かかわってこないのは少し残念です。

ただ、私はそういう学習状況結果等の数字、あるいは、不登校在籍率等の数字に一喜一憂することはないと思います。今までどおり、上田市教育委員会が子ども達のために、手厚い事業や取組をしていただけたことが、大変ありがたいし、素晴らしいことだと思っています。是非、今後も継続していただきたいと思っています。

二つ目に「小中学校のあり方検討委員会」についてです。人口減少社会で、子どもの数が減り、学級数が減り、学校の規模が縮小します。

私は、別の仕事で 3 年間で北は栄村の秋山小学校から南は木曽の三岳中学校など十数校の閉校について取材しましたが、非常に複雑な思いを持っています。

「これからの学校」がどうあるべきか、ということは、非常に大事です。学校のあり方というのは、いわゆるハード面の校舎をどうすべきか、ということそれだけではなくて、ソフト面の教育課程をどう組むか、授業時数をどうするか、教員の配置をどうするかということまで、全てが入ってくると思います。学校数、学校規模、教育課程を上田市としてどう考えていくか、非常に大事だと思います。

市長さんが先ほどからおっしゃっている、郷土愛を育むような、例えば、「上田学」等は以前から出ていますけれども、そういう内容をいれるのか、いれないのか。

私が非常に好感を持っているのは、上野が丘わいわい塾の取組です。子どもたちが自分の郷土を愛する心を育むのに非常に効果的だと思っています。また、先ほどから話の出ている信州型コミュニティスクールのために「統括コーディネーター」を配置したことも、素晴らしいと思います。今後に期待しているところです。以上でございます。

柳原政策企画部長

今、上田学のお話しも出ましたけれども、今年度、上田学については政策企画部でどういう風にやるか、企画を考えております。よろしく願いいたします。

平田教育委員

北沢委員がお話されたように上田市教育支援プランには丁寧な施策や取り組みがあり、14もの支援策があります。3つの基本目標のひとつ「ふるさと上田に学ぶ」を視点にしても、支援策6、支援策13などいろいろあるんですね。

今ここに主な取り組みとして載っているものは、社会背景、情勢を鑑みて早急に対応していかなければならない問題ばかりですが、記載されていない支援策も大切なものばかりです。昨今の想定外の自然災害を考えますと支援策14の「自然を守り、災害や犯罪から自らを守る教育の推進」も非常に大切だと思います。行政も繁忙と思いますが、ひとつひとつの施策をしっかりと推進していただくことが重要であり、その成果に期待しております。

柳原政策企画部長

ありがとうございます。それでは、次2ページですが、生涯学習・スポーツ分野でございますが、委員様の方で、どの分野でも結構ですので御意見等ありましたら、よろしく願いしたいと思います。

イ 生涯学習・スポーツ分野

北沢教育委員

図書館とスポーツ施設、特に体育館等についてお話します。すでに基本構想はできているはずですが、それに基づいて、なるべく早く中央図書館の建設をと思っています。

ただ予算との関係で難しいこともあると思います。けれども、是非、図書館の建設を考えていただきたい。図書館は、上田の文化の一つの象徴でありますので、全国に誇れるような図書館を建てていただける方向で考えていただけるとありがたいと思います。体育館についても同様のことが言えます。あれもこれも作ってくれというのは、難しい面がありますが、図書館あるいは体育館については、考えて良い時期が来ているかと思っています。よろしく願いします。

つけ加えて、図書館や体育館建設等、教育委員会で扱う分野が多岐にわたっていて、これが良いのかどうなのか、ということが、いくつかの市町村で協議されています。上田市では、スポーツ交流分野等が市長部局に行ったことが、妥当なのかどうか、私自身、理解できていませんが、もっと他の分野でも、教育委員会から市長部局に移した方が良いのかどうかということ、やはり考えていかなければいけないのではないかと考えています。

柳原政策企画部長

図書館、体育館のハード整備であります。委員様がおっしゃるとおり、財源の問題がございます。特にスポーツ施設については、国体が迫ってくることもありまして、市長部局、政策企画部でも優先順位をつけながら、最優先で取り組んでいきたいと考えております。

文化施設、図書館も含めて、財源の方を見ながら時期を捉えて、引き続き検討したいと思っております。

先ほども、スポーツ行政についてもありましたが、29年度に文化行政を政策企画課長のほうからありましたように、市長部局に持ってまいりました。国際スポーツについては、市長部局政策企画部で行っておりまして、通常の市体育行政については、スポーツ推進課で取り組んでもらっています。

文化行政については、今回、イタリアラグビーの関係もありまして、イタリア文化について、商工会議所等と連携しながら市長部局の方で対応させていただいております。

組織的には上手くいっているのかと思います。他の分野のスポーツ全て、生涯学習分野について、今後、市長部局へ移動するかというのは、法律の絡みもございますけれど、検討課題として捉えておりますので、引き続き教育委員会とは、話し合っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

どうでしょう。生涯学習分野で。

横関教育委員

信州型コミュニティスクールの周知と広報のことですけれど、先日7月3日の日も学校支援ボランティア交流会に行ってきましたけれど、グループ討論などして皆さん本当に子どもたちのことや地域のことを真剣に考えておられました。ある学校では、学校運営委員会の中に子どもたちを入れて、子どもたちと一緒に学校の運営について話し合っているという話を伺うことが出来ました。

そういうような学校もあつたりすることもありまして、やはり地域の子どもは地域で育てなければいけないと思うんですけれど、そこに参加する人たちだけではなくて、やはりこの取り組みを幅広く知ってもらおうということで、上田市はこういうことをやっているのだということをもっと知ってもらおうというのは大事なことかと思っております。

学校支援ボランティアハンドブックもすごくよくできていて、わかりやすくできているので、是非ホームページ等に載せていただいて、ちゃんとわかるようにしていただくと、保護者の皆さんにも周知できるかと思っております。ハンドブックを配らなくてもホームページ上で見るようにしていただくと良いかと思っております。

それから、わいわい塾でもそうですし、交流会でもそうですし、9月1日にやる、行列のできるコミュニティスクール相談所ということで地域とともにある学校づくりということで開催されますけれど、そのようなときも行政チャンネルも入れていただいて、誰もが見たり、情報を共有できるようなことをしていただくとよろしいのではないかと思います。残念ながら、行政チャンネルがなかなか知られていないのか、再生回数が伸びないというのがありますので、是非そういうところで

どういう風に市のことに興味を持っていただくのかということもあわせて、地域づくりや人づくりもあわせてお願いしたいと思います。以上です。

小林生涯学習・文化財課長

御意見ありがとうございます。たしかにおっしゃるとおり、信州型コミュニティスクールについて知らない方がいっぱいいらっしゃいます。学校に関係している方だけではないので、ホームページで良い事例等を載せながら、いろんな方に、まずコミュニティスクールを知っていただくことに努めていきたいと思いますので、御協力をお願いします。

柳原政策企画部長

行政チャンネルにつきましても政策企画部でやっていますので、委員様の御意見を踏まえまして、また相談させていただきたいと思います。

横関教育委員

よろしくお願いいたします。

平田教育委員

お願いします。上田市の生涯スポーツの推進ですけど、昨今、市民協働の成果が見られているのではないかと感じる事が多くあります。

市内のスポーツクラブ連携事業や健康チャレンジポイントの活用などで、市民の方々がスポーツに関心を持ちやすくなっていると思います。

こういった活動を、子どもたちに対応できないか。例えば、子どもたちがチャレンジポイントを活用できるようなシステムを作るとか、具体的に市長部局と教育委員会と連携して何か計画していますか？ 考えていただけると良いなと思います。

柳原政策企画部長

それでは、ポイント制度について御説明いたします。

ポイント制度については、健康部局でやっておりまして、大人対象にしてやっているわけですが、子どもにはですね、例えば、大人が得たポイントを学校に還元するというかたちで、寄附していただきまして そのポイントに応じて学校の方に希望する運動用具をお渡しするといったかたちでやっております。

なかなかちょっと件数が伸びない実態はありますけど、そのようなかたちで子どもたちへの還元ということなどもしていきたいと思います。

子ども自体への活動へのポイントについては、市長部局も考えていないのですが、御意見をいただきましたので担当課の方に伝えたいと思います。

ほか、どうでしょうか。市長の方から生涯学習分野はよろしいですか。

土屋市長

先ほどから、図書館と体育館の話聞きまして、大変重要な指摘とっております。計画的に進めなきゃいけないということは考えています。

図書館のことのなかで、貴重な資料の整理がされていないのは結構あるのですかね。どういう資料なのでしょう。

清水上田図書館長

花月文庫ですとか、嬉笑文庫という重要なものにつきましては、目録等が配備されているわけですが、上田図書館、情報ライブラリー、丸子図書館ですか、寄贈されたものがまだございまして、それらについては、上田図書館におきましては、第二図書室に積まれたままというものもございまして、情報ライブラリーでも適宜、作業を進めております。また丸子図書館につきましても、いくつか寄贈されたものの目録の作業をやっておるものもございまして、それらの分につきましてもこれから随時、作業進めていきたいということで答弁させていただきました。

土屋市長

これは誰が整理しているのでしょうか。

清水上田図書館長

なかなか人材が不足しておりまして、作業員賃金という予算を取りまして、その予算の範囲内で、上田図書館については週に1回か2回来ていただいて作業を行っています。

丸子図書館及び情報ライブラリーにつきしても、作業員賃金で対応しているところでございます。

土屋市長

貴重な資料を頂いているわけですので、できれば速やかな形でできる風にすることが理想と思いますので、どういう方がやっているかわかりませんが、ボランティアの方なのか、一般市民の方なのか、整理するのが得意な人といえますか、いると思うのですよね。

できるだけいただいた資料がどうなっちゃっているんだと言われないようにしないとイケないと思います。またお互い情報交換をしながら、やっていきたいと思います。以上です。

柳原政策企画部長

よろしいですかね。それでは最後に文化芸術分野でございます。この分野について、いかがでしょうか。

ウ 文化芸術分野

北沢教育委員

サントミュージゼの活用に大変期待しています。

サントミュージゼの活用については、イベントや興行的なものは、もちろんですけども、やはり「子どもアトリエ講座」とか「子ども文化講座」とか、地域の子どものためのワークショップ的なもの、出前講座等に期待しています。このすばらしい取組が、故郷上田の郷土愛を育むことにもつながりますし、上田市の魅力の発信にもつながっていくと思います。

時々、新聞にサントミュージゼの取組が出ていますが、それを見て大変うれしく思っています。上田市以外の人にも知っているサントミュージゼは、運営面、費用対効果も含めて、是非良い方向に進むようにしていただければ、ありがたいと思います。以上でございます。

横関教育委員

サントミュージゼを核としたということで、サントミュージゼの芝生広場はあまり活用されていない感じがします。

第二次上田市総合計画にも書いてありますように芝生広場や商店街等を使い、若手アーティストを発掘するフェスティバルを実施し、市民交流を深め、まちなかの賑わいを創出しますというのが、大きなものであるかと思うのですが、是非、芝生広場で子どもたちが活躍する場を作っていただいたり、それから商店街に2015年ですけれど、戦国絵巻街道 in 海野町ということで、たくさんの絵、トリックアート等を貼ったと思いますけど、あれはとても賑わいがあって、通る高校生、中学生、小学生が見たりして、アートに興味を持つこともあると思います。

是非、まちなかや道ばた、そういうところでアートを感じられる。アートと言っても美術もありますし、音楽もあるので、寄贈されたピアノとかありましたら、どこかに置いていただいて、それを誰でも弾けるストリートピアノがあったりとか、それからサントミュージゼの中も勉強する場所になってしまっている部分もあったりするので、勉強するなら多目的ホールを解放することができないかなとか。

コンサートをもっと開いていただいて、もっともっと音楽というものに触れたり、芸術に触れる場面を子どもたちや市民のために作っていただいて、活気のある、にぎわいのあるまちにしたいと思います。

まちなかには、まちなかキャンパスもありますので、こちらの方もまだあまり活用されているような状態ではないので、そちらでも芸術や学習等いろいろなことに活用できると良いかと思しますので、その活用方法を考えていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

腰原交流文化芸術センター副館長

たくさんの御意見を頂きまして、ありがとうございます。

広場について御意見をいただきました。あくまでも広場については、貸し出しの施設としてはカウントしていない状況です。ただ、あれだけの場所であれだけ人が集まって来れる場所で、駐車場も完備ということで、皆さんの御希望をいただいておりますので、研究させていただくという形で取り組みさせていただいております。

私ども、各種事業を取り組みさせていただいておりますけれども、一つの試みとしては11月にマチ×マチフェスティバルという形で、アートをまちにということで取り組ませていただいております。

今、美術館と協力して、海野町が中心にありますけれども、空き店舗等のシャッターを開けてですね、アートを迎え入れていただいて、人に集まっていただく。

そのようなことを将来的には、私どもは望んでいるところでして、その形に向けて取組みを進めさせていただきたいと思っております。

サントミュージゼもお陰さまでたくさんの方に御利用いただいて、まちのステータスのひとつの要素になっているのかなと考えております。

子どもたちの勉強ばかりしているねというのもあるのですけれども、そういうことで来ていただくことがひとつ、いまのところ私どもの方は、機能の一つという風に捉えさせていただいて、文化芸術を味わっていただく非日常を体験していただくのと、常に日常にサントミュージゼをという部分と、その辺の折り合いはこれからも検討させていただいて、進めさせていただきたいと思っております。

柳原政策企画部長

そろそろ、時間も無くなってまいりましたが、よろしいでしょうか。

平田教育委員

うえだアーツスタッフアカデミーについてお伺いいたします。市民の方々との協働がまちづくりには欠かせないと思うのですが、卒業された方々は、その後、ボランティアなど、どのような活動をされているのでしょうか。

腰原交流文化芸術センター副館長

うえだアーツスタッフアカデミーなんですけれども、私どもの方で、音楽の関係、それから舞台の関係、演劇の関係、そのような形で進めさせていただいております。

それぞれ私どもの方で市民参加型の演劇公演等を実施させていただいておるんですけれども、ここで学んで、演劇の方にチャレンジしていただいたり、ダンス公演を自ら企画をされて実施されたりという形で、数は決して多くはないのですけれども、御参加いただいている皆さんにはスタッフも兼ねて御活躍いただいております。

圏域として、上田市だけではなくてですね、群馬とか長野、松本も含めてですね、そういった方々もこちらの方に御参加いただいております、そういった部分のところで何かコラボできないかと言っていたのですけれども、なかなか難しいですけれども、その形で広がりを持たせていただいております。

平田教育委員

ありがとうございます。

柳原政策企画部長

ありがとうございました。よろしいですか。

一通り御協議いただきました。ありがとうございました

前回もそうなのですが、この中からひとつ、ふたつテーマを選出していただきまして、次回、その次くらいに協議の方をいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

どの分野でも構いませんが、是非、このテーマだけはもう一度、詳しくというものがありましたら、お出しただければ、ありがたいですけれども、いかがでしょうか。

前回、英語教育の関係、サントミュージゼのワークショップのテーマでさせていただきました。

もし今日、出ないということであれば、後日こちらの方に連絡いただければ、意見を集約させていただきまして、テーマを設定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、教育総務課の方に、このようなテーマでどうかということでお出しただければ、大変ありがたいかと思えます。来週いっぱい位にお願いいたします。

以上、時間のない中で、ありがとうございました。全体を通して、何かございますか。

次回の開催でございますけれども、テーマを検討しながら、詳細につきましては後程、御連絡させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは時間のない中、様々な御意見を頂戴いたしました。本当にありがとうございました。いろいろな御意見を参考にさせていただきながら、市長部局との連携のなかで、協力して進めていきますので、市長部局としても、しっかりと受け止めさせていただきたいと思えます。

本日の会議事項はこれにて閉会させていただきます。どうもありがとうございました。